

## 令和5年度 第3回国分寺市環境審議会議事要約（案）

日 時 : 令和5年9月13日(水) 午後3時30分～午後5時  
会 場 : 市役所 プレハブ会議室第3

### ○会議次第

1. 開会
2. 議事
  - (1) (仮称)国分寺市地球温暖化防止行動計画(市域版)の検討について
  - (2) 第五次国分寺市地球温暖化防止行動計画(市役所版)の検討について
  - (3) 第三次国分寺市環境基本計画及び実施計画の検討について
3. その他
4. 閉会

出席委員 : 中西由美子会長, 大友美輪委員, 益子美賀委員, 和田淳委員, 竹内大悟委員,  
野澤淳史委員, 六車貴美子委員, 巻田清委員, 伊藤皓子委員, 三浦貞夫委員

出席委員 : 10人

欠席委員 : 2人

傍聴者 : 0人

事務局 : まちづくり部まちづくり計画課6人(部長, 課長, 係長2人, 担当2人)

### 配布資料

- 資料1 (仮称)地球温暖化防止行動計画の基本理念・施策等について  
資料2-1 第四次地球温暖化防止行動計画(市役所版)の取組状況について  
資料2-2 第五次国分寺市地球温暖化防止行動計画(市役所版)策定の流れ(修正)  
資料3 第三次国分寺市環境基本計画及び実施計画の検討について  
参考資料1 (仮称)地球温暖化防止行動計画(市域版)についての環境審議会意見  
(令和5年度第2回環境審議会・審議会後)  
参考資料2 第2回環境基本計画 市民ワークショップ じぶん×未来×ぶんじ  
～自分ごととして考える未来の国分寺の環境～  
令和5年度第2回(第10期第1回)国分寺市環境審議会議事要約

## 1. 開会

### ●まちづくり計画課長あいさつ

まちづくり計画課長よりあいさつを行った。

## 2. 議事

### ●配布資料の確認

事務局より配布資料の確認を行った。

#### (1) (仮称) 国分寺市地球温暖化防止行動計画 (市域版) の検討について

事務局より資料1・参考資料1・前回審議会資料4を説明

中西会長：市域版計画について、本日は施策体系と削減目標の議論がメインとなる。第2回環境審議会資料では、施策を考える視点として提示された「オール国分寺で取り組む」と「国分寺らしさ・国分寺のポテンシャルを活かす」の2つの視点を計画の基本理念に掲げる形に修正されている。また、施策体系には市民・事業者の取組も組み込まれていたため施策に重複感があったが、その点が修正されたことですっきりとした施策体系になっている。まずは施策体系についてご意見いただきたい。

和田委員：前回の施策体系は、市民と事業者と市が取り組む形になっていたが、今回あくまで市域版計画として市の取組を施策体系として明確にとりまとめた点はわかりやすくなったと思う。一方で、これから検討する予定かもしれないが、カーボンニュートラル実現には、市だけではなく市民・事業者も同列に取り組んでいく必要があるため、その点を市域版計画でも具体的に示した方がよいと感じた。

中西会長：資料1の1頁に「計画の実施主体と役割」が示されているが、この部分をもっとしっかり記載した方がよいということか。

和田委員：16頁以降の「家計のオトク」という表現が面白いと思う。市民にとって、省エネの取組を実践するとどれくらいお金を節約できるということが書いてあるととてもわかりやすい。削減効果の見える化という点では、カーボンクレジットなどもあるが、市民が日常生活を送る中では、この取組をやればいくらお得でかつカーボンニュートラルに貢献できるということを示した点は非常にわかりやすくてよいと思う。

中西会長：市民が自分たちの取組の効果が見える化できるとよいという前回審議会の意見を受けて、オール国分寺で取り組む脱炭素スタイルへの転換ということで、家庭でできる省エネの取組という形で削減効果などを含めて整理したものと思う。この資料編は具体的な取組が非常に細かく書かれているが、市民や事業者が自分たちのアクションをチェックできるようになっている点はよいと思う。また、計画の基本理念に関しては、キャッチコピーが示されているが、そのことについての説明を本文に具体的に文章化した方がよいだろう。計画の実施主体と役割については、市域版計画は市の計画ではあるが、オール国分寺で取り組むという点から、各主体が自分事として取り組むということをもう少し書き込んでよいのではないかと思う。

三浦委員：自分も家族も住んでいる自治体の計画を知らない、聞いたことがないということがよく

ある。そのため、市の役割として計画そのものを周知していく、努力していくことを明言しておくことによって、あらゆる機会を捉えて市民に浸透させていくことも必要ではないかと感じた。

中西会長：基本方針1脱炭素ムーブメントの創出が市民への周知に該当する施策だと考えていたが、市域版計画そのものの周知についても入れ込んでおく必要があるだろう。

三浦委員：施策としての脱炭素型スタイル等の普及啓発だけではなく、市域版計画そのものの周知も必要だと考えている。

和田委員：一般的に、行政が策定する計画そのものを周知するということを計画に記載することはあまりないように思う。例えば、都市計画マスタープランを策定したときには、マスタープランの中に計画自体を周知するということを記載しなかったが、まちづくり推進のためにイベントやワークショップを通じて周知を図るといったことを記載したことはある。そのため、環境に関する計画を周知するよりも環境に関するイベント等を実施していき、市民の環境に対する意識レベルを高めるという書き方はできるのではないかと思う。

伊藤委員：計画の実施主体と役割に関して、市民や事業者には「市の取組に協力する」との記載があるため、市も「市民や事業者の機運醸成を行う」といった役割を明確にしてもよいのではないかと感じた。

中西会長：市が率先して取り組むことに加えて、「市の取組に協力する」に対となるように、市民・事業者にも周知を図ることで役割分担が明確となり、市民・事業者・市が並列で取り組んでいくことになるのではないかと。

事務局：小項目には「市や事業者の取組の支援」といった記載はあるが、もう少し大きいレベルで記載した方がよいということか。

中西会長：計画全体の立ち位置のようなものが市の役割にも記載があった方がよいということだろう。

事務局：ご意見を踏まえて記載を検討させていただく。

六車委員：市としては、市民や事業者の取組に協力するとすれば対応する形になるのではないかと。

中西会長：市は計画を率先して引っ張っていく立場であるため、市民や事業者の個別の取組に対しては支援でよいが、計画全体を進めていく意気込みや立ち位置については、協力ではなく推進などより良い表現が必要だろう。

六車委員：市民・事業者・市それぞれが連携して取り組んでいくという観点から、市の役割にも「協力」という文言が入る方がよいと感じる。

中西会長：取組の種類によって市が「協力」を必要とする部分があると思う。例えば、市民が木を植えるといった取組には市の協力が必要なこともあるが、市が計画の推進主体として取り組んでいくといったニュアンスの言葉があるとよいだろう。

六車委員：市域版計画の名称は仮称となっているが、正式名はいつ決まるか。また案はあるか。

事務局：事務事業編である地球温暖化防止行動計画（市役所版）と対応させた形で、今のところ地球温暖化防止行動計画（市域版）で考えているが、計画名称の最終決定はこれからである。

六車委員：今年の猛暑を踏まえると「地球温暖化防止行動計画」という名称はもう現状と合わないように感じる。他自治体の計画でも名称に地球温暖化防止が入っていないため、検討い

ただきたい。

中西会長：施策の内容や進捗管理の指標についても意見があればお願いしたい。

六車委員：前回の審議会では、削減ポテンシャルの試算結果に関する資料があったが、試算結果と施策体系を連動させて示すことは難しいのか。削減ポテンシャルの内訳を示すことで、例えば脱炭素型スタイルへの転換でかなりの削減を見込んでいるとか、「ウォークブルシティの形成」は取り組むことは大切だが削減ポテンシャルは小さいといったことが見えてくるとよいのではないか。ただ施策が書いてあるだけではわかりにくい部分がある。

中西会長：削減ポテンシャルは施策によって数字として試算可能なものと困難なものがあると思うが、施策体系との関連付けについてはどのように考えているか。

事務局：基本方針2「省エネ化と再エネ導入の推進」の進捗管理の指標で示しているように、再エネ導入量については設定できると考えているが、省エネに関する削減ポテンシャルの試算はあくまで国や東京都と連携して取り組んだ場合と仮定し、国の地球温暖化対策計画において2030年までの国全体での施策・対策による削減見込量が示されているものについて、市でも削減が見込める量を活動量から按分して算出している。そのため、そのまま市の施策と紐づけて記載すべきかどうかは悩ましいところである。

六車委員：せっかく削減ポテンシャルを試算したのだから、その結果を公表しなければ国分寺市が本気だということをわかってもらえないのではないか。

事務局：他自治体の計画では、計画本編への掲載、資料編への掲載など示し方がいくつか見られる。削減ポテンシャルの見せ方については、いくつか選択肢があるのではないかと考えている。

中西会長：今のところ、施策体系と紐づけて削減見込を示す想定はないということか。

事務局：基本方針レベルで割り振れるかといった課題があるため、対応は難しい部分と考えている。

六車委員：他自治体の計画を見ていると、具体的な数値の記載があるとやはりわかりやすい。また行政としてやる気が違うと感じる。温室効果ガス排出量50%削減を目標とするのであれば、できればt-CO<sub>2</sub>といった統一された単位で記載した方がとわかりやすい。

中西会長：三浦委員と伊藤委員に行政の立場としてお伺いしたいが、計画にこのように試算結果の数値を書き込むことはできるのか。

三浦委員：数値の根拠が公表されていれば記載はできるが、記載に際して、市でコントロールできる数値なのかといった課題がある。

伊藤委員：施策体系には市がこれから取り組んでいく施策が記載されている。温室効果ガス50%削減を目指して基本方針1～6に取り組んでいくという形であれば、必ずしも数値との紐づけがされていなくてもよいのではないか。気になっている点として、15頁以降に家庭でできる取組の省エネ効果とCO<sub>2</sub>削減量が記載されているが、どれくらいの割合の人がこれらの取組を実践すると、堅実ケースや野心的ケースの削減目標達成に近づくのかという部分を示せるとよいのではないかと感じた。

中西会長：計画策定後には、進捗状況を評価していく必要がある。削減目標に到達できるのかどうか、施策との紐づけについては気になる部分である。

事務局：家庭でできる取組で示した省エネ効果等は環境省や東京都の普及啓発資料から目安として羅列している段階であり、削減目標との紐づけはできていない状況である。そのため、

市の目標値と結び付ける場合には改めて試算が必要となる。

中西会長：基本方針ごとに進捗管理の指標が記載されているが、これらは今後市として把握できるものが設定されているのか。

事務局：指標に設定する項目と目標値は今後庁内で調整を予定しているが、本日の資料では市として把握可能な項目を指標として記載している。

中西会長：温室効果ガスの削減目標と指標がどれだけ結び付くのかという部分もあるがどうか。

事務局：削減目標と関連して、例えば、市内緑地は少ないため吸収量としては見込んでいない。一方、市内の緑地を保全していくことはヒートアイランド対策やグリーンインフラといった観点からは重要であるため、みどりの保全と創出を基本方針の1つに設定し、指標によって進捗管理していく方向で考えている。

中西会長：削減目標の達成に向けて、削減見込をどのように計画で示すかという点については引き続き検討をお願いしたい。次の話題に移るが、削減目標について、前回審議会では十分に議論できなかった部分であるため、ご意見をお願いしたい。論点としては、堅実ケースか野心的ケースか、東京都の目標か国の目標かといったことか。

事務局：削減目標の検討に当たって、前提として、市の温室効果ガス排出量の約50%を家庭部門が占めている。そのため、削減目標を高く設定すればするほど、それだけ市民の協力が必要となる。再エネ導入見込量の試算は、アンケート結果に基づき、堅実ケースでは住宅の建て替えなどの契機があれば導入したいと考えている割合を見込んでおり、野心的ケースでは堅実ケースの見込みに加えて、現時点でそこまでの意向のない人も導入することを数値に見込んでいる。一方で、市が勝手に作った計画、勝手に立てた目標では達成はできない。このような状況を踏まえて2030年に向けてどれくらいの削減目標を目指していくべきか、審議会でご意見をいただき、それを受けて内部で検討したいと考えている。

中西会長：市民代表としてぜひ大友委員、益子委員からご意見いただきたい。

大友委員：市民がもっと取り組む必要があると言われても行動に移すのはなかなか難しいと感じている。細かいことだが、国分寺市のごみ袋は10枚ごとにビニール袋で包装されているが、20枚ごとに改善すれば、それだけでも包装で発生するごみを半分に減らすことができる。また、日本全国で言えることだが、照明がとても明るい。デパートのスーパーの照明を半分にしても市民は別に困らない。ある意味半強制的に実施しても市民生活への影響はあまりない取組をやってもよいのではないかと。また、市民の取組からずれてしまうが、12ページの「施策5-2 環境に負荷をかけない移動手段」の「コミュニティバスのZEV化に向けた検討」は、ごみ収集車や公用車等にも広げてよいのではないかと思う。また、家庭でできる取組のオトクを値段で示すことはわかりやすくよいが、その他にゲーム感覚で取り組めるような仕組みがあるとやる気が出るのではないかと。例えば、削減量を計算はすることは難しいかもしれないが、地域単位や学校単位、都道府県単位で排出量をどれだけ削減できるか競って1位には旅行券プレゼントといった特典があればよいのではないかと考えている。まずは市内でゲーム感覚で楽しく温暖化対策に取り組めるとよいと思う。

益子委員：削減目標に関しては、市民の協力なしでは達成できないということもあって50%とされていると思うが、個人的には60%くらいの高い目標を設定しなければ50%にも到達し

ないのではないかと思います。市がやるぞという意気込みを示して、そこに市民が付いていく形がよいのではないかと。また、先日議会の一般質問で市議会議員から専門家のご意見として60%削減できるという話が出ていたが、市がどれだけゼロカーボンシティ実現のための予算を出して、市民にお金を出して推進していくのかも重要ではないか。地球温暖化対策もお金がある人だけができるのではなくて、お金がない人にも行き届くような支援が必要だと思う。

中西会長：現在の案よりも強めの目標でもいいのではないかとのご意見、また、やはり削減量を数値化できた方が取り組みやすいというご意見をいただいた。

竹内委員：基本理念や、市民・事業者・市の三者が並行して取り組んでいくという方針はその通りでよいと思うが、市は計画を策定した立場から率先して取り組んでいき、事業者には法令である程度規制が入ることで取組が進む部分がある。一方、市民には規制などの強制力はなく、個人の判断に委ねられる部分が多い。そのため、市民にどう行動変容を訴求していくのかという部分をもっと強く押し出していく必要があるのではないかと。施策の内容は淡々としていてもよいが、資料編の家庭でできる取組の方がむしろ重要。アイデアも含めて市民ができる取組を計画に書き込んでいくことで、可視化されて市民へ訴求していくのではないかと。そういう意味で、家庭のオトクはとてもよいアイデアだと思う。こういったものをもっと示すことができれば、市民にも自分もやってみようと思ってもらえるのではないかと。

中西会長：温室効果ガス排出量の半分を占める市民が頑張ろうと思える何か計画に必要ということだろう。それがあれば、60%削減も目標に設定することができる。その流れが欲しい。

大友委員：60%削減はおそらく市民全員が本気になればできる。その本気にさせるものは何かという点では、なぜ温暖化対策をやらないといけいないのか、やらないままだと地球がどうなってしまうのかといったことをもっと具体的に書いた方がよいのではないかと。例えば、氷が解けてホッキョクグマの住むところがなくなってしまうといった話は私たちも知っているが、もっと身近な話で、今の子どもたちの世代が大人になったときどうなってしまうのかを具体的に示して、本当に怖い、今取り組まないと間に合わないといった気持ちから変えていくことも必要だと思う。

中西会長：どこまで計画に書き込むかという部分はあるが、地球温暖化対策をやらないとどうなるかという部分についても事務局には検討いただきたい。

野澤委員：これまでの議論を聞いていて2点述べたいと思う。市民全員で本気で取り組むことは非常に重要だと思うが、市民にも意識の格差がありできることが限られている人もいる。そのため、エアコンの冷房を1時間減らすといった、その人がこれしかできない取組を実施した結果、熱中症になってしまう可能性がある。施策体系には適応策も含まれており、そういった観点からも市の施策と具体的な取組の整合を図る必要があるだろう。もう1点は自分の研究分野の話になってしまうが、climate integrityという概念がある。近年、企業も自治体も気候変動対策が当たり前になった時代において、グリーンウォッシュ（企業等が実態を伴わないのに、あたかも環境に配慮した取組をしているように見せかけること）も当たり前になっている。そのような中で、本気の自治体をどうやって見つけるのか、どうやって機運を高めるのかといったことを調査で明らかにする手法はまだ確立されていない。そのため、計画を策定しても言いっ放しになってしまい、市民

も動かないまま終わってしまう可能性がある。削減目標や削減ポテンシャルといった数字の見せ方や出し方、市民・事業者・市の三者の協働のつながりは入念にデザインしておく必要を感じた。

中西会長：よい知見があれば共有いただきたい。

野澤委員：日本語に訳すのが難しいが、integrity はやる気度、本気度といった概念に近い。最近、海外の論文では、integrity を明らかにしていこうという研究の流れがある。

中西会長：削減目標に関しては、審議会としては強気に出てもよいのではないかという結論でよいか。

伊藤委員：行政的な判断もあり野心的ケースを削減目標に設定してもよいと思うが、まずは国分寺市民に省エネ行動が習慣化し、定着することが重要。ハードルが高過ぎると人間は辛く感じてしまい実践が難しくなってしまう。そのため、最初は目標を下げ設定しておき、徐々に上げていってもよいのではないかと思う。

中西会長：私としても削減目標は堅実ケースと野心的ケースの2択ではなく、2段階の目標設定という考え方もあり得るのではないかと思う。

六車委員：危機感を煽るのもよいが、家庭のオトクと関連して、省エネ行動を実践すると地域通貨ポイントをもらえるといった施策は市民の実践につながる高い効果が見込める。7月の審議会資料では、新規施策として地域通貨ポイントについて記載されていたが、本日の資料には記載がない。今後も検討していく予定はあるか。

事務局：今後普及啓発の取組の一環として検討していくことになると思うが、新規事業をこの段階で断定的に記載することは難しいため、「推進」や「普及啓発」の形で記載している。

中西会長：事務局には、引き続き計画全体の見せ方、各主体の役割、削減目標については2択でなくてもよいがどちらかといえば野心的ケースを選択してもよいのではないかという点を踏まえて検討いただきたい。

## (2) 第五次国分寺市地球温暖化防止行動計画（市役所版）の検討について

事務局より資料2-1・2-2を説明

中西会長：本日は時間がないため議論は省略する。今後、市役所版計画についても審議会で議論する機会があるため、委員の皆さんには本日の資料に目を通していただきたい。

## (3) 第三次国分寺市環境基本計画及び実施計画の検討について

事務局より資料3を説明

中西会長：資料3の策定のスケジュールだが、令和6年度に最終的に環境基本計画が策定されるということで、現状は、検討段階の初期として「現状と課題の整理」の段階でワークショップを行い、あわせて次世代の意識調査を実施し、課題の洗い出しをしていると理解した。動植物調査も実施しているのか。

事務局：**その通りである**。動植物調査については、平成27年度以来の2回目のものであり、市内6か所で実施している。年度末には調査結果が出るため、平成27年度と今年度の比較として、希少種や外来種など、生きものの生息・生育の状況の推移が分かる。この結果を

受けて、今後の生物地域戦略の策定基本方針の中の題材に活用していきたいと考えている。

中西会長：ほかに質問がないようなので、この結果をまとめていただき検討を進めてほしい。実際の審議に入るのは2月以降ということで承知した。

### 3. その他

事務局：次回は10月30日（月）午前10時から正午までで、場所は国分寺市役所書庫棟会議室で開催予定である。また開催通知を送らせていただく。

### 4. 閉会

中西会長：令和5年度第3回国分寺市環境審議会を閉会する。